

平成 26 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 イメージ情報開発株式会社  
代表者名 代表取締役社長 代永 衛  
(コード番号 3803)  
問 合 せ 先 取締役経営管理室長 佐藤 将夫  
(TEL:03-5217-7811)

### 営業外費用の発生及び第2四半期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 8 月 15 日に発行済株式の 50%を取得し持分法適用会社となりました株式会社北栄にかかる「持分法による投資損失」が発生いたしました。また、この影響も含め、平成 26 年 5 月 14 日発表の第2四半期連結業績予想との差異について、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 営業外費用の発生

##### (1) 持分法による投資損失の発生及びその内容

持分法適用会社である株式会社北栄(以下「北栄社」という。)は、海砂利採取業を主な事業としており、当社は同社のコンサルティング業務を受託しております。

平成 27 年 3 月期第2四半期連結累計期間において、北栄社が海砂利納入をしていた埋立工事が自然環境保護のため工事半ばで中止となるなどの影響を受け、大幅に計画を下回り、営業外費用として「持分法による投資損失」を計上することいたしました。

平成 26 年 10 月からは、上記工事の再開及びその他工事の受注を行っております。また、既に工事が開始されている那覇空港第2滑走路増設工事におきましては、海砂利納入が平成 27 年秋から開始される予定となっておりますので、その受注に向けた活動を行っております。

##### (2) 業績へ与える影響

平成 27 年 3 月期第2四半期連結累計期間の業績において、42,637 千円を「持分法による投資損失」として営業外費用に計上しました。

2. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績の差異  
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	417	△49	△55	△55	△33円39銭
今回実績(B)	358	△94	△133	△124	△74円68銭
増減額(B)-(A)	△59	△45	△78	△69	—
増減率	△14.1%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年3月期第2四半期)	367	△52	△54	△52	△31円42銭

注) 当社は、平成 25 年 10 月 1 日付けで 1 株につき 200 株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績の差異理由

売上高では、商品販売分野は拡大し、BPO/サービス分野は堅調に推移いたしましたが、コンサルティング/設計/構築分野及び保守/運用分野におきましては、消費税引上前の駆け込み需要の影響を受け、さらに大型案件の開発開始時期が遅れ第 3 四半期以降の計上となるなどにより前回の予想を下回る結果となりました。

利益面におきましては、売上高の不振に加え、売上高に占める売上原価率が上昇し、また持分法適用会社である株式会社北栄からのコンサルティング収入が計画を大幅に下回り、かつ前述しました「持分法による投資損失」を営業外費用として計上しましたことから、前回の予想を下回る結果となりました。

4. 通期業績予想について

売上高では、コンサルティング/設計/構築分野において第 2 四半期累計期間に計画しておりました大型開発案件が年度内には完成する予定であり、また、その他の新規案件を当初計画を超えて受注する見込みであります。保守/運用、BPO/サービス分野は堅調に推移しており、当初業績予想の売上高に達する見込みであります。

利益面におきまして、上記売上高増加に伴う収益を確保し、売上原価、販売費及び一般管理費の圧縮に努めるとともに、株式会社北栄の活動により「持分法による投資利益」が寄与できることから当初通期業績予想通りに推移する見込みです。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示いたしてまいります。

以上